

# 学校における安全教育の取組のさらなる充実

第3回有識者会議資料

2025年12月22日

※委託事業者であるNTTデータ経営研究所の作成資料を基に、文部科学省において編集・作成

# 目次

## I. 本年度の方針

1. 実施事項
2. 会議スケジュール

## II. 実施内容

1. ヒアリング候補の選定
2. 本年度の成果物の全体像について

# I

## 本年度の方針

# 1. 実施事項

## ■学校における安全教育の取組のさらなる充実

資料 3-3



### 「第3次学校安全の推進に関する計画(令和4年3月25日閣議決定)」における主な関連記述

#### 3. (1) 安全教育に係る時間の確保

国は、学習指導要領の下、各学校における安全教育が保健体育をはじめ関連する教科等で体系的に実施され、その指導の充実が図られるよう、好事例を周知することや「学校安全の推進に関する計画に係る取組状況調査」において実施状況等を定期的に把握し、公表していくことにより、各学校が学校安全計画に安全教育を取り扱う時間を適切に位置付け、年間の指導時間の確保に取り組むことを推進する。

#### 3. (3) 学校における教育手法の改善

国は、発達の段階に応じて、被災地を含めた様々なボランティア活動などの体験活動やデジタル技術を活用した学びによる安全教育の推進を図る。また、児童生徒等が楽しく前向きに取り組めるような魅力的な授業事例、教職員が活用しやすいコンパクトな授業事例の共有やその推進を図る。安全教育についてはその効果の検証も重要であり、国は、安全教育の評価の在り方について検討を進める。等

### 事業内容

有識者会議等の音頭を踏まえ、安全教育の取組に関する先進事例等を収集し、各学校における安全教育の体系的な実施や、指導内容を充実するための観点や手法等を整理した資料を作成する。

#### 主な方法

- セーフティプロモーションスクール認証校等に対するアンケート調査
- ヒアリング調査

安全教育の体系的な実施や指導内容を充実するための資料 作成



#### 先進事例等の収集方法

- セーフティプロモーションスクール認証校、学校安全総合支援事業モデル校等に対するアンケート調査を実施
- 上記対象校について、有識者からの意見も聞きながら、さらに対象を選定し、ヒアリング調査も実施

#### 調査の観点

- カリキュラム・マネジメントの考えを踏まえた教育課程への反映
- 学校安全計画への位置付けや目標設定
- 全教職員による安全教育推進のための校内組織体制
- コミュニティ・スクールなど地域と連携した安全教育の取組
- 体験活動やデジタル技術の活用等の授業事例
- 効果的な安全教育の評価手法 など

### 関連調査研究

#### ・学校安全のモデル的取組に関する実態調査(R7)

〔委託業者〕株式会社NTTデータ経営研究所

### 事業の流れ

#### STEP 1：調査対象・調査方法の検討（7～9月）

- ※第1回有識者会議で事業の方向性を提案し、意見聴取
- ※委託事業者によるアンケート調査の検討・実施（8月～）
- ※適宜、有識者から指導・助言

#### STEP 2：調査実施・結果分析・整理等（9～12月）

- ※委託業者によるヒアリング調査実施（9～12月）
- ※第2回有識者会議（10月末）で先進事例等の選定、分析状況等を進捗報告

#### STEP 3：成果物の取りまとめ（12～3月）

- ※第3回有識者会議（12月末）で成果物の素案を提案し、意見聴取
- ※第4回有識者会議（2月）に成果物の案を提案し、意見聴取 → 年度内取りまとめ

### 事業の成果物（イメージ）

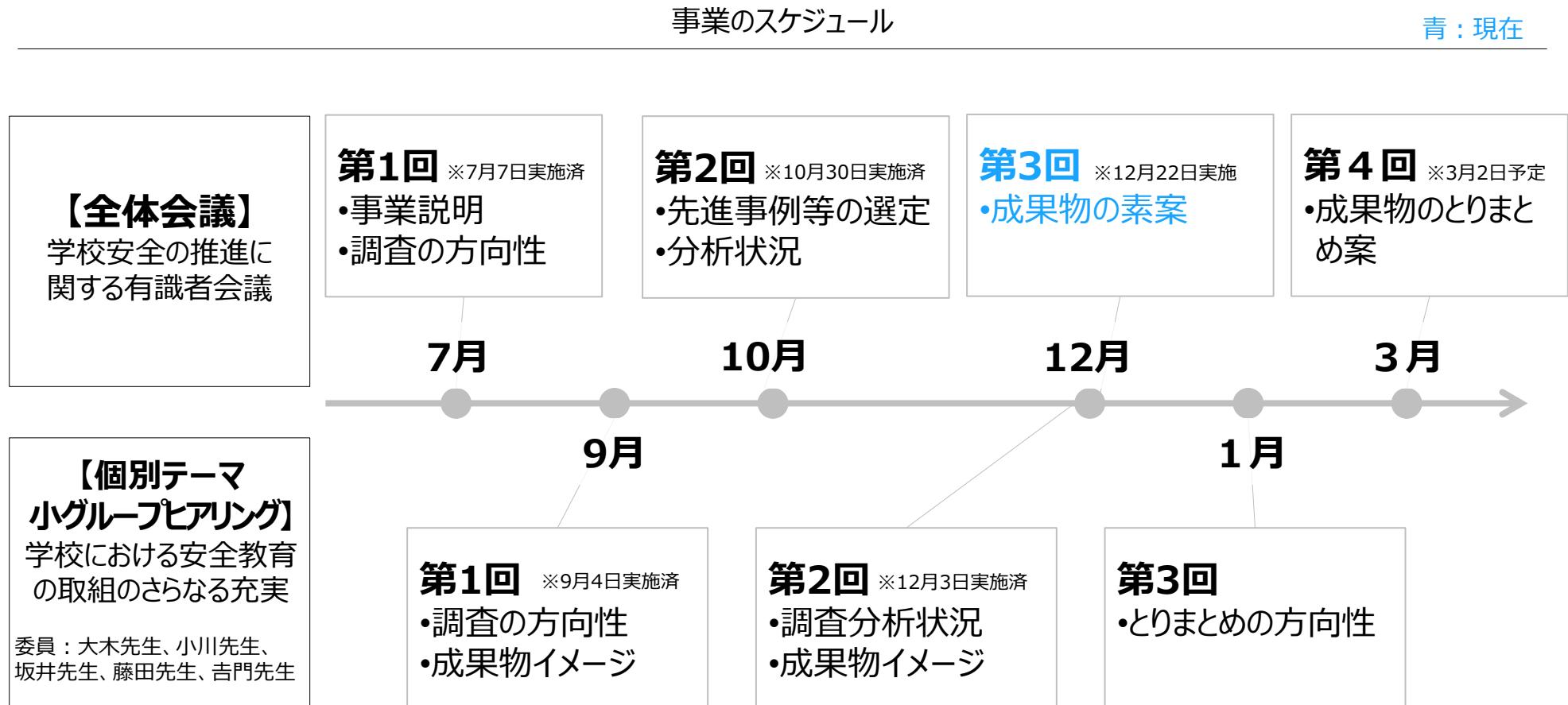
- 安全教育の体系的な実施や指導内容を充実するための資料（掲載内容）  
収集した先進事例等を分析し、安全教育の体系的な実施や、指導内容を充実するための観点や手法等をわかりやすく整理  
手法等について、有識者の意見も踏まえた解説を付すなど、各自治体・学校現場に浸透する、活用しやすい形式となるよう工夫する

### 成果物の活用イメージ

- （文科省）  
都道府県教委等への通知、研修会等での活用 など
- （各自治体、設置者）  
各学校現場への周知、研修会等での活用 など

## 2. 会議スケジュール

- 令和7年度中に本会議を4回実施する。その他、調査・分析や取りまとめの方向性等、事業推進に関する重要事項について協議する小グループヒアリングを年度内に全3回実施し、取りまとめ予定。



# II

## 実施内容

# 1. ヒアリング候補の選定

## (1) 選定の手順

- ヒアリング候補選定にあたって、収集すべき事例を設定したうえで事例ロングリストを作成、さらに絞り込み選定基準に合致する事例をヒアリング候補として抽出した。次項以降で具体的な検討内容を説明。

### 選定の手順



# 1. ヒアリング候補の選定

## (2) 選定の状況

- 『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』をもとに、事例ロングリストを作成した上で、絞り込み基準を設定し、ヒアリング候補を絞り込み。

### 一次調査：収集すべき事例の設定

『「生きる力」をはぐくむ学校での安全教育』を踏まえ、質の高い安全教育を実施している事例を幅広く収集するための観点を整理。

### 事例ロングリストを作成

机上調査で幅広く事例を収集し、ロングリスト化。

### 絞り込み選定基準

ロングリストの中から、全国の教育委員会、学校等への模範性の高い事例を抽出

- 安全に関する資質・能力の育成を目標とした取組になっている
- 効果的な教育課程が編成されている
- 適切に学校安全計画に位置付けられている
- 児童生徒の主体的な行動が促進されている
- 様々な評価手法の検討、実施、改善がなされている

250事例

- 学校設置者または学校が主体的に実践していること
- 汎用性・模範性が高いこと（真似しやすい・多くのケースに当てはまる）
- 取組の阻害要因、プロセス、成功要因・背景の情報把握ができること
  - ①質の高い安全教育の実践に向けて何がハードルだったのか（阻害要因）
  - ②どのように達成していったのか（プロセス）
  - ③なぜ質の高い安全教育が実践できたか（成功要因・背景）※上記の把握は困難であった場合であっても、①～③について重点的なヒアリングを実施する予定。
- 一次調査の観点以外にも、安全教育を推進する上でその他重要なポイントが含まれている可能性が高いこと
- 以下の観点から事例のバランスがとれていること
  - 学校設置者の事例も一定程度入っている
  - 日本全国の事例がバランスよく入っている
  - 私立の事例も含まれている
  - 学校種別ごとの事例がバランスよく入っている
  - 災害安全、生活安全、交通安全の3領域がバランスよく入っている

### ヒアリング候補

ヒアリング候補（24事例）

# 1. ヒアリング候補の選定

## (3) ヒアリング先一覧 (現状)

- ヒアリング候補24事例のうち、3つの教育委員会、13の学校にヒアリング済。辞退4校を除く残り4校について今後ヒアリング予定。

ヒアリング先一覧

教育委員会	No	団体名	地域	
	1	茨城県大洗町教育委員会	関東	
	2	高知県教育委員会	四国	
	3	熊本県熊本市教育委員会	九州	
学校	No	団体名	私立/公立	学校種
	1	宮城県石巻市立住吉中学校	公立	中学校
	2	茨城県稻敷市立江戸崎小学校	公立	小学校
	3	千葉県八街市立朝陽小学校	公立	小学校
	4	千葉県立市原八幡高等学校	公立	高校
	5	長野県長野市立加茂小学校	公立	小学校
	6	岐阜県飛騨市古川中学校	公立	中学校
	7	静岡県島田樟誠高等学校	私立	高校
	8	京都府京都市立明親小学校	公立	小学校
	9	大阪府高槻市立丸橋小学校	公立	小学校
	10	大阪府河内長野市立石仏小学校	公立	小学校
	11	兵庫県立明石北高等学校	公立	高校
	12	鳥取県立鳥取西高等学校	公立	高校
	13	山口県光市光井小・中学校	公立	小学校・中学校
	14	高知県土佐市立蓮池小学校	公立	小学校
	15	高知県立山田特別支援学校	公立	特別支援学校
	16	福岡県新宮町立新宮東中学校	公立	中学校
	17	大分県佐伯市立佐伯南中学校	公立	中学校

※今後ヒアリング予定

※今後ヒアリング予定

※今後ヒアリング予定

※今後ヒアリング予定

## 2. 本年度の成果物の全体像について

## (1) 成果物イメージ※前回資料より一部修正

- これまで「実践的な防災教育の手引き」をはじめ、個々の実践的な授業事例に着目した安全教育の好事例集は作成されてきたが、今年度作成する資料については、教育活動全体を通じた安全教育が効果的に実施されるよう、先進的な事例について、その背景やプロセス、成功要因、阻害要因などを分析しながら、主に学校の安全教育の評価の取組を含め、安全教育全体における運用上の仕組みに関する具体的な項目を解説する。
  - 主な読者層としては、教育委員会における学校安全関係者や、各学校における学校安全の中核を担う教職員をはじめ、避難訓練・交通安全教室や、各教科において安全教育を実施する教員など、安全教育の実践者を対象とする。

## 作成方針

## 仮題

## 【教育委員会の学校安全関係者・学校の安全教育実践者必読】 **教育活動全体を通じた効果的な安全教育のための実践解説**

## 主な想定 読者

## 教育委員会（都道府県・市町村）の学校安全関係者 学校安全の中核を担う教職員はじめ、安全教育の実践者

## 構成

## はじめに

## 第1章 本解説書の構成とねらい

※生きる力をはぐくむ学校での安全教育と本解説書の関係性

## 第2章 効果的な安全教育を実施するためのポイント解説

〔教育委員会編〕

第3章 同【学校編】

※4つのカテゴリ（目標、内容、進め方、評価）に分けて、ポイントを列挙。また、各ポイントごとに実践事例を交えて説明

## 成果物イメージ（第2・3章部分）

個々の事例を切り口に、効果的な安全教育のポイント（15～20件程度想定）を具体的に解説

## 学校/安全教育の評価の方法

## 子供たちの成長を 適切に評価できていますか？

安全教育の評価づくりでは、話し合い・体験・振り返りを通じて、子どもの危険認知や判断力の育成を図ります。

- 【事例での取組（例）】
  - 話し合いの姿勢などの観察による評価
  - 自己有用感、判断力などの変化に対する自己評価
  - 訓練等のあなたの振り返りと運動した評価
  - 3か年計画に基づいた段階的な目標設定と評価づけ
  - 簡易テストの実施 など

## 事例 防災訓練と振り返りコメント

● ある生産性評価  
ホーロード、ガス炉、ガス機器、燃費、生産のコストによる評価

- ・石巻市立住吉中学校は、震災被災地の中学校として「常に備えよう」を合言葉に、実際災害を想定した防災訓練、復興防災マップづくりを総合学習に組み込んできた。訓練後オンラインフォームでの振り返りや地域防災連絡会での共有を通じて、生徒の危機認知や判断力、自己有用感の変化を捉え、地域とともに避難体制と安全教育を改善している。

#### 精美的松仁拇指手串

#### （株）エムズ・アソシエイツ

- ・避難訓練や地域防災訓練の後、全校生徒からオンラインフォーム（Googleフォーム）で自己評価と自由記述を回収している。危険認知や判断力、主体的行動への気付き、地域の役立つて感覚などの変化を、参加率などの数値だけでなく、達成感や課題意識、自己有用感が表れたコメントの質の高まりとしてもらっている。その結果を職員会議や地区防災連絡会でも共有し、次年度の訓練内容や指導の改善に反映することで、評価と指導サイクルを確実に回している。

## 2. 本年度の成果物の全体像について

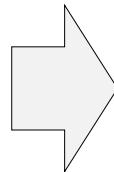
### (2) 「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」と本解説書の関係の整理

- 本年度作成する解説書では、「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」で示されている項目立てに沿って、全国の教育委員会・学校が参考とできるような、運用上の仕組みに関する効果的なポイントを列挙して解説する。さらに、個々のポイントに対して、全国の具体的かつ先進的な実践事例をぶら下げて掲載し、各地域において自らの取組を見直し、実際に新たな取組を取り入れてもらえるような内容とすることを目指す。

#### 「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」と本解説書との関係



「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」では、「第2章学校における安全教育」の第1～4節において、**安全教育の①目標、②内容、③進め方、④評価**について解説



#### 本解説書の構成の方向性

全国の先進事例に対するヒアリング結果を元に、「『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」で示されている項目立てに沿って

#### ①目標、②内容、③進め方、④評価

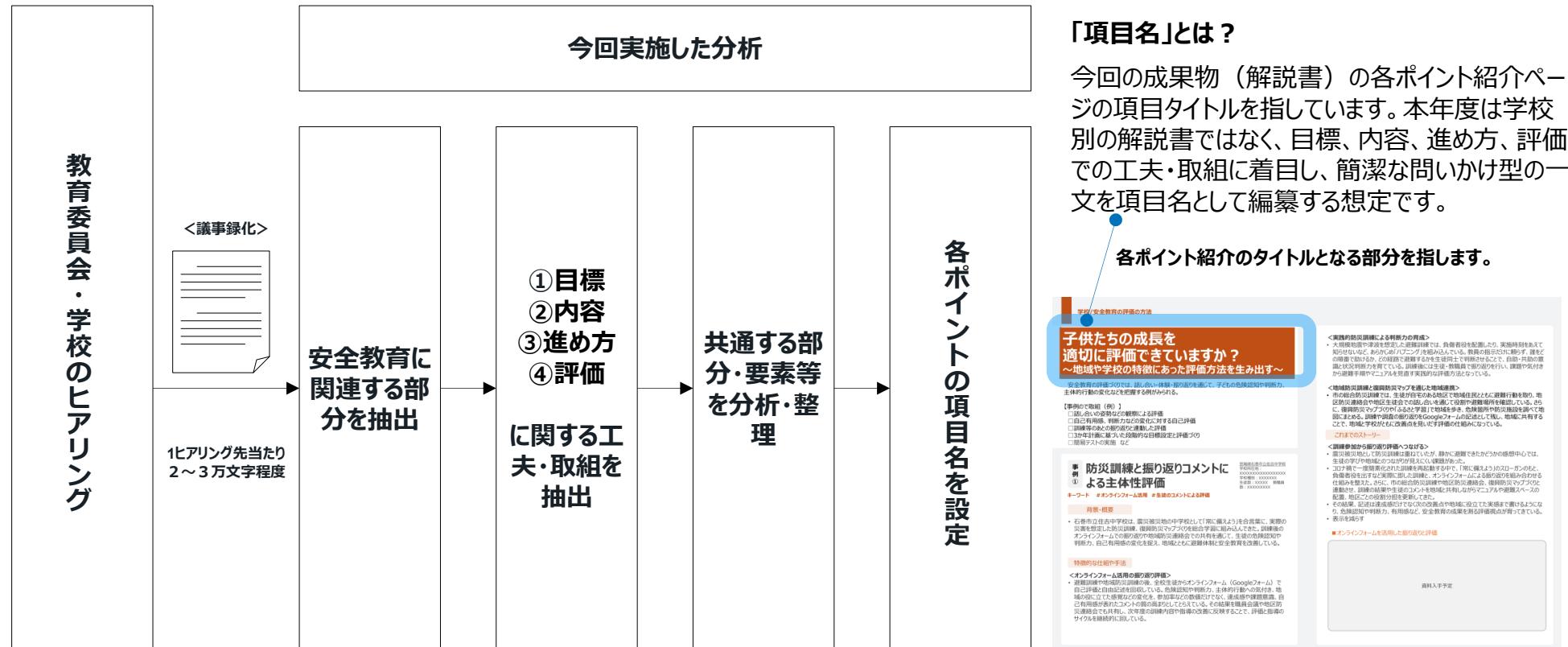
の**4つのカテゴリ分け**のうえ、教育活動全体を通じた安全教育のための運用上の仕組みに関する効果的なポイントを列挙して解説。また、個々のポイントに対して、全国の具体的かつ先進的な実践事例をぶら下げて掲載。

## 2. 本年度の成果物の全体像について

### （3）各ポイント紹介ページの項目名の設定方法

- 本解説書ではヒアリング結果をもとに、全国の学校の参考となる運用上の仕組みに関する効果的なポイントを紹介する方向。このため各学校自体に焦点を当てるのではなく、目標、内容、進め方、評価における工夫・取組に着目し、読者である教育委員会や学校が、自らの取組を見直し、実際に新たな取組を取り入れてもらえるよう、できるだけ簡潔な問いかけ型の一文を各ポイントの「項目名」として設定する。

## 項目名抽出の流れ



## 2. 本年度の成果物の全体像について

### (4) ヒアリング事例において抽出された安全教育の工夫・取組

- ヒアリングの結果、各事例の安全教育全体における運用上の仕組みに関する工夫・取組を抽出。これらの工夫・取組についてKJ法を活用し、本解説書における各ポイント紹介ページの「項目名」として整理（次ページ以降参照）

#### 各団体における具体的な工夫・取組

教育委員会	No	団体名	地域	工夫・取組
	1	茨城県大洗町教育委員会	関東	・自分で守る意識付け目標設定 ・単元別防災内容整理プログラム化 ・QR運動防災ハンドブック活用 ・地域連携型防災体験活動実施 ・中核教員連携の広域的な見直し実施 ・生徒・教職員共同討議型防災学習の導入 ・判断力を育成する避難訓練 ・振り返りカードを活用する評価実施
	2	高知県教育委員会	四国	・自助意識基軸の安全目標導入 ・学校経営計画内の安全目標位置付け ・安全教育プログラムの体系的導入 ・安全教育全体計画ひな型活用 ・イレギュラーを設定した避難訓練実施 ・評価指標を活用した多面的評価導入
	3	熊本県熊本市教育委員会	九州	・副読本整備とデジタル教材活用 ・消防と連携する防災授業参観実施 ・安全学習統合枠組み導入 ・中学校区連携の計画見直し実施 ・安全WSによる対話型学習展開

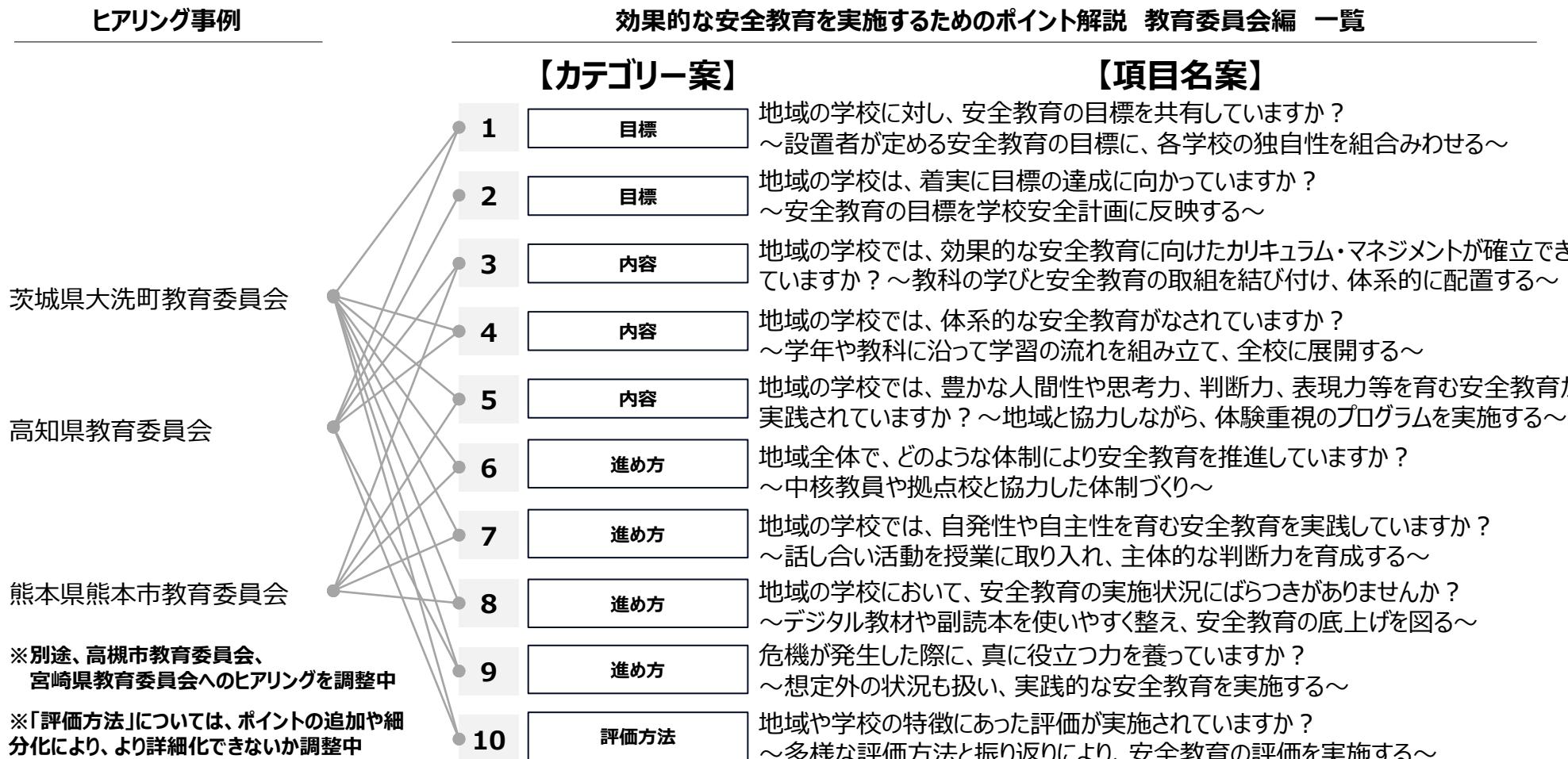
※別途、高槻市教育委員会、宮崎県教育委員会へのヒアリングを調整中

学校	No	団体名	私立/公立	学校種	地域	工夫・取組
	1	宮城県石巻市立住吉中学校	公立	中学校	北海道・東北	・失敗する仕掛けを組み込んだ避難訓練による優先順位を判断する力を養う指導 ・防災訓練と振り返りコメントによる主体性評価
	2	茨城県稲敷市立江戸崎小学校	公立	小学校	関東	・水害リスクを可視化する児童主体の防災マップ作成
	3	千葉県八街市立朝陽小学校	公立	小学校	関東	・思考力・判断力重視の安全目標設定
	4	千葉県立市原八幡高等学校	公立	高校	関東	・二学年通年の“防災の学び”授業の実施 ・学校設定教科として防災の学び位置付け
	5	岐阜県飛騨市古川中学校	公立	中学校	中部	・豪雨災害対応に関する三年間防災探究プログラム ・避難所運営と防災マップ連動の実践学習
	6	静岡県島田樟誠高等学校	私立	高校	中部	※本年度成果物として取り上げるべき点は乏しい。別途、「家庭・地域・関係機関等との連携・協働体制の構築」の好事例として取り扱うことを検討。
	7	京都府京都市立明親小学校	公立	小学校	近畿	・70時間の防災学習による地域探究プログラム
	8	大阪府高槻市立丸橋小学校	公立	小学校	近畿	・自分を守る・みんなで守る目標設定 ・SPS認証プロセスを軸とした安全計画のPDCA
	9	大阪府河内長野市立石仏小学校	公立	小学校	近畿	・自助から他者支援へ発達段階に合わせた目標設定 ・SPS構想と校区全体安全計画の統合運用
	10	兵庫県立明石北高等学校	公立	高校	近畿	・命最優先を軸とした一貫した目標設定 ・学期別にテーマ設定をする防災ロングの実施
	11	鳥取県立鳥取西高等学校	公立	高校	中国	・総合探究内に防災テーマを常設化
	12	山口県光市光井小・中学校	公立	小中学校	中国	・小中連携デジタル安全マップ作成プログラム ・熟議と地域参加を基軸とした安全教育評価
	13	大分県佐伯市立佐伯南中学校	公立	中学校	九州	・抜き打ち津波避難訓練による自助判断力の育成 ・三段階目標と行動変容での評価

## 2. 今年度の成果物の全体像について

### (5) ヒアリング結果分析から設定した各ポイント紹介ページの「項目名」（案） 【教育委員会編】

- 3つの教育委員会の工夫・取組から、学校の安全教育全体における運用上の仕組みに関する効果的なポイントの「項目名」の案を、4個のカテゴリ、10個のポイントにとりまとめ。



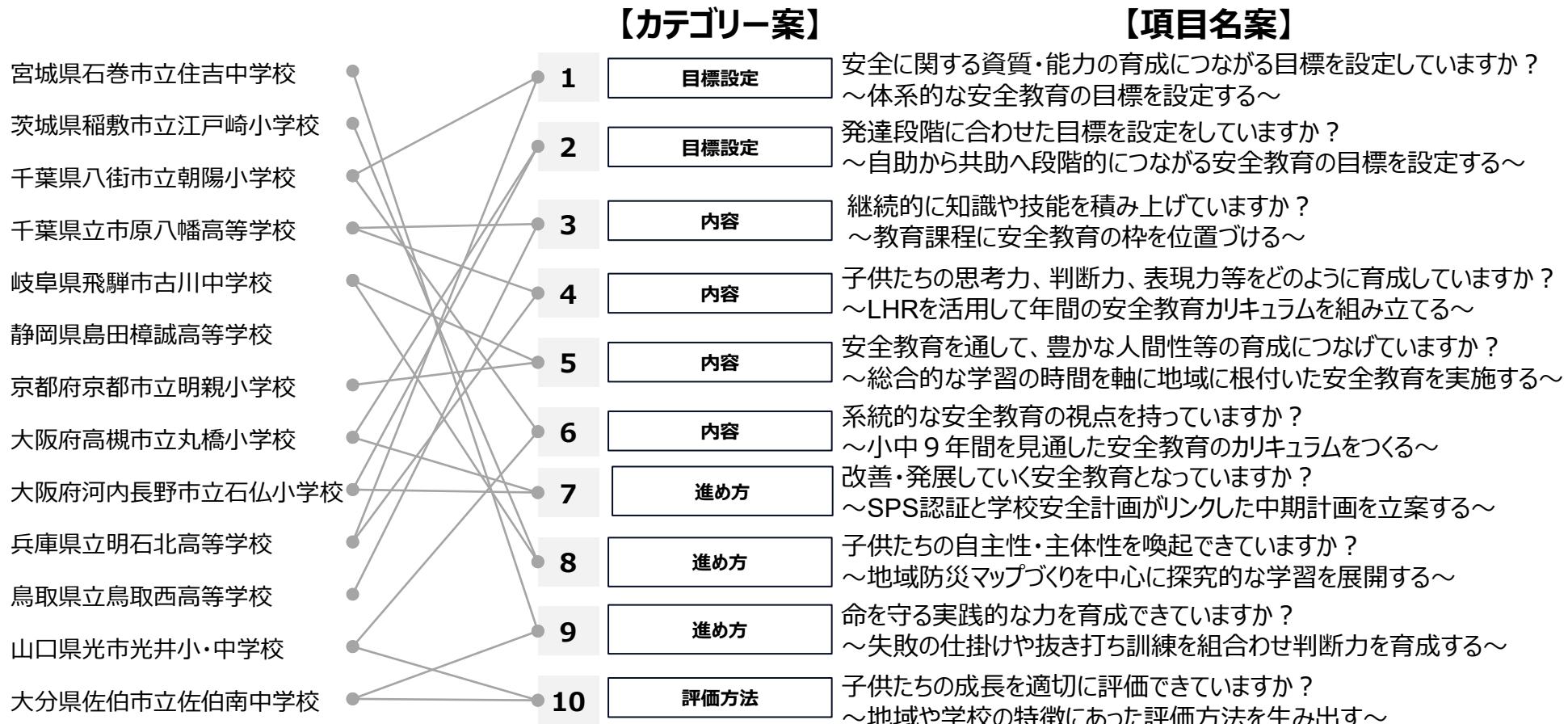
## 2. 今年度の成果物の全体像について

### (5) ヒアリング結果分析から設定した各ポイント紹介ページの「項目名」(案)【学校編】

- 13の学校の工夫・取組から、学校の安全教育全体における運用上の仕組みを紹介するに関する効果的なポイントの「項目名」の案を、4個のカテゴリ、10個のポイントにとりまとめ。

#### ヒアリング事例

#### 効果的な安全教育を実施するためのポイント解説 学校編 一覧



※「評価方法」については、ポイントの追加や細分化により、より詳細化できないか調整中